施策4 市営バス路線の改善					
関連する方針・目標	方針1：地域住民の自立した日常生活・社会生活を確保する。 方針2：まちの変化に対応した公共交通を整備する。 目標1：高齢者や学生など誰もが利用しやすい公共交通の構築				
施策の内容 <p>市営バスは、市内移動の主要な交通手段であり、今後も、高齢者や学生等に必要な移動手段を確保するため、引き続き運行を維持・確保します。</p> <p>一方、路線によって人口状況、結んでいる拠点などが異なり、沿線の状況にあわせた維持・改善が求められています。市営バスを持続可能な交通手段とするため、財政負担も考慮しつつ、利用者の利便性を向上させる必要があります。</p> <p>交通分野における新たな技術（バスロケーションシステムやAI、MaaSなど）の活用なども想定し、新たな運行形態の導入も含め、維持・改善を検討します。</p> <p>①市営バス路線の改善・再編と支線としての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学利用者数の多い時間帯や路線は、水原駅での鉄道、民間路線バス、安田インターでの高速バスの接続にあわせたダイヤと輸送に見合った車両を確保し、効率性・利便性の向上策を実施するとともに、利用者の少ない便の効率化も検討しながら、路線の維持・確保を行います。 ・利用者数が落ち込んでいる時間帯・路線は、需要は少ないが、細かいニーズが点在している状態です。これまでに実証運行してきたデマンド運行では予約の仕方や運転手への運行指示に難しさを感じましたが、それらを解消する方法として、AI等の新たな技術を活用したAIオンデマンド運行を段階的に進めていきます。運行内容の変更を行う場合は、地域との協議の上、実施します。 ・市営バスは都市間移動を担う幹線に対して支線としての役割があります。中でも、交通不便地域（北陸信越運輸局長が指定する地域）や過疎地域を運行している路線（前山線、神山線、安田地域循環線）は平成23年度から地域公共交通確保維持改善事業（地域内リーダー系統確保維持費国庫補助金）を活用していますが、今後、令和6年度中から段階的にAIオンデマンド運行へ切り替え、引き続き同補助金も活用して安定的な交通手段の確保を図ります。この市営バスの運行は交通手段が確保されない地域において公共交通を確保することができるとともに、地域間交通ネットワークへアクセスしているため、交通不便地域の住民が日常生活を送る上で、今後も確保維持していく必要があります。 					
実施主体	阿賀野市、交通事業者				
実施時期	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度